

令和 7 年 10 月 17 日

課名 地域政策局公共交通政策課

担当者 担当課長（交通活性化担当）矢島

内線 2585

芸備線再構築協議会第 6 回幹事会の開催結果について

1 概要

芸備線 備後庄原駅～備中神代駅間の交通手段再構築を議論する「芸備線再構築協議会」について、令和 7 年 10 月 10 日、第 6 回幹事会が開催されたため、その結果について報告する。

〔芸備線再構築協議会の概要〕

- 特定区間：備後庄原駅（庄原市）～備中神代駅（岡山県新見市）
- 構成員：中国運輸局（議長）、岡山県、広島県、新見市、庄原市、
広島市、安芸高田市、三次市、JR 西日本、学識経験者 ほか
- 位置づけ：特定区間の交通手段再構築を協議する場

※広域的な見地から特定区間以外の区間も含めて広島駅～備中神代駅間の区間について議論を行う。

2 現状・背景（経緯）

令和 5 年 10 月 3 日 JR 西日本が、地域交通法に基づき、備後庄原駅～備中神代駅間における再構築協議会の設置を要請

令和 6 年 3 月 26 日 第 1 回芸備線再構築協議会 開催

10 月 16 日 第 2 回芸備線再構築協議会 開催

令和 7 年 3 月 26 日 第 3 回芸備線再構築協議会 開催

7 月 9 日 第 4 回芸備線再構築協議会 開催

10 月 10 日 芸備線再構築協議会第 6 回幹事会 開催

3 議事

- (1) 幹事会規約の変更
- (2) 芸備線再構築に関する実証事業（実証事業 A）
- (3) 芸備線再構築に関するより専門的な分析等調査事業
- (4) その他

4 議事の内容

(1) 幹事会規約の変更

人事異動に伴う規約の変更について承認

(2) 芸備線再構築に関する実証事業（実証事業 A）

- 事務局から、実証事業 A について、7 月以降、列車の増便や二次交通の設定、芸備線を活用したにぎわい創出、プロモーションの実施などに順次取り組んでいる旨、報告
- JR 西日本から、7 月～11 月の 4 か月間運行されている増便列車について、週 1 便ではあるが、来年 3 月まで対応できる見通しが立った旨の発言があり、構成員間で合意
- 今後、構成員間で具体的な運行日やダイヤ等を調整し、内容が決まり次第、JR が公表

【構成員の主な意見】

構成員	主な意見
JR 西日本	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自治体側からの増便期間延長の要望に対して、事務局から検討の指示があり、年度後半に捻出可能な乗務員のリソースを整理した結果、週 1 便の増便継続に対応できる見通しが立った。 ○ ただし、広島県側では、耐雪仕様の車両運用の都合により、広島から備後落合までの直通運行ではなく、三次での乗継が必要となる。 ○ また、岡山県側では、乗務員のリソースを捻出するため、増便列車を運行する日について、新見発の最終便をタクシーなど他の交通手段により代行輸送する。

構成員	主な意見
広島県	<ul style="list-style-type: none"> ○ 増便列車の設定は、芸備線の可能性を最大限追求するための重要な要素であるため、本県としては、現在の運行を延長する形で、土日祝日に運行することを希望していたが、冬期は人の往来が少ないとや、人の往来が増える春以降の取組の実施に向けた具体的な内容の検討や準備を、地域において進める必要があることなどを踏まえ、JRからの提案を受け入れる。 ○ その上で、引き続き、庄原市を始めとした沿線各市や、地域の関係団体などと連携し、増便列車を活用し、日常利用と観光利用の両面から、取り組んでいきたい。 ○ 12月以降における日常利用の拡大に向けた二次交通の設定や、観光利用に向けた冬のツアーフェスティバルなど、構成員間で議論し、12月からの取組の全体像についても早期に整理する必要があるため、事務局において必要な対応をお願いする。
庄原市	<ul style="list-style-type: none"> ○ 本市の望む形としては、7月から現在まで行われている運用と同様、土日祝日全てで、広島から備後落合まで乗継なしの直通列車を想定していたため、JRの提案は、現在の運用と比べると、利便性が低下する。 ○ しかし、乗務員や車両の確保などの制約がある中での対応案として検討いただき、提示されたものと受け止め、引き続き、増便が途切れることなく運行することを最優先とし受け入れる。 ○ 来年4月以降の増便列車の運行についても、引き続き検討いただきたい。
岡山県	<ul style="list-style-type: none"> ○ 芸備線の可能性を最大限追求する観点からも冬期増便を行ってほしいとの意見がある一方、JRにおいても、人員確保などのリソースに課題があるとされていた中、この度、週1回程度の増便という方針を示していただいたことについては、真摯に対応していただいたものと受け止めている。 ○ ただし、JRの案では、日中の増便を行うため、新見発の最終便を運休し、その代替手段としてタクシー等による運行案が示されていることから、実施に当たっては、乗客の積み残しなどの影響が地域に及ぶことがないよう、運行事業者と連携を図りながら、適切に対応していただきたい。
新見市	<ul style="list-style-type: none"> ○ JRにおいては、冬期の週1回の増便を実施するために、運転手や列車の調整に応対いただいたことから、受け入れることとし、本市としても、これまでと同様、増便に合わせた二次交通の運行に向けて、運行事業者と調整を行っていく。

(3) 芸備線再構築に関するより専門的な分析等調査事業

- 事務局から、乗込調査やアンケートの経過報告、他地域事例調査、実証事業Aの検証の進め方などについて報告
- 事務局から、他地域事例調査において、鉄道ならではの価値を抽出することや、来年の議論を見据えるため、鉄道以外の他モードの事例調査や他モードの地域経済効果試算の在り方の検討を進め、11月の協議会で議論を行うことの提案があり、その方向性で一致

【構成員の主な意見】

構成員	主な意見
岡山県	<ul style="list-style-type: none"> ○ 鉄道以外の他モードの事例を収集することは、地域にとって最適な交通モードを構成員間で議論していく上で必要な調査と考えている。 ○ 他の交通モードにおける費用対効果を明確に示し、地域にとって最適な交通モードの在り方を検討していくことについて異論はない。 ○ 再構築方針案作成の目安である3年というスケジュールを踏まえると、11月の協議会で、他モードの地域経済効果の試算を議論する必要性はあると考える。
新見市	<ul style="list-style-type: none"> ○ 岡山県と同様の意見である。
庄原市	<ul style="list-style-type: none"> ○ 列車アンケートの特徴的な回答としては、臨時列車の利用者の半数は県外から来ていること、利用のきっかけが、芸備線への乗車自体が目的であること、来訪者の半数は列車が無かったら庄原を訪れなかつたことであり、この傾向は、ローカル鉄道特有の特性・魅力であり、他の輸送モードでは現れない利用と考える。
JR 西日本	<ul style="list-style-type: none"> ○ 鉄道以外のモードも含めて、幅広く事例を集めて議論に行うことや、来年度を見据えて議論を進めていくことは、必要であると考えている。

※ 広島県からは、提案内容に異論はないことからコメントしていない

(4) その他

【構成員の主な意見】

構成員	主な意見
広島県	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「全国的な鉄道ネットワークの在り方」について、国の考え方を明らかにしていただくことは、芸備線再構築協議会の議論の前提であると考えている。 ○ こうした中、実証事業Bの内容などの検討については、再構築方針の策定に向けて、制度的にも実施していく必要があるため、議事3において事務局が提案した進め方に異論はないが、これまで申し上げているとおり、本県としては、他モードとの比較検証を行う実証事業Bに入るまでには、「全国的な鉄道ネットワークの在り方」に係る国の考え方を明らかにしていただきたい。
庄原市	<ul style="list-style-type: none"> ○ 増便延長の詳細が決定次第、実施期間や予算配分などについて、改めて構成員間で協議し、実証事業Aの全体を組み立て直す必要があると受け止めている。 ○ 5月の幹事会において今後議論していくとされた全体スケジュール案について、早期の協議・整理をお願いしたい。
岡山県	<ul style="list-style-type: none"> ○ 冬期の増便に向けた対応や、他の交通モードにおける地域経済効果の試算など、議論すべき項目は多岐にわたるため、引き続き、構成員間で議論を深めていきたい。
新見市	<ul style="list-style-type: none"> ○ 事務局には、実証事業Aに係る進行管理や広域的な広報などを積極的に行っていただきたい。
神田 教授	<ul style="list-style-type: none"> ○ 鉄道を活かしながら、どのようなまちづくりを目指すのか、目的と手段をセットで議論していくべき。 ○ 実証事業Aの実施に当たっては、付加価値を出していくための仕組みや、それを持続可能にしていくためのマネジメント体制についても議論していく必要がある。

5 今後の対応

- 11月下旬から来年3月までの列車増便について、構成員間で合意したことを踏まえ、県としても、庄原市を始めとした沿線各市や、地域の関係団体などと連携し、12月以降の取組の具体化や準備を進めていく。
- 今回の幹事会において、鉄道以外の他モードの事例調査や地域経済効果試算の在り方について検討を行い、11月の協議会で議論を行う方向性で一致したことから、次回の協議会に向けて、構成員間で具体的な検討を進めていく。
- 全国的な鉄道ネットワークの在り方について、他モードとの比較検証を行う実証事業Bに入るまでには、国の考え方を明らかにしていただくよう、引き続き、国に求めていく。
- また、国土交通省において、ローカル鉄道の再構築を巡る議論の深化を図り、更なる取組につなげる検討を行うため、「鉄道事業者と地域の協働による地域モビリティの刷新に関する検討会（第2期）」が設置されたことから、その議論の状況を注視していく。

6 その他

(1) 今後のスケジュール（予定）

令和7年 11月	第5回芸備線再構築協議会
令和8年 年明け	芸備線再構築協議会第7回幹事会
年度末	第6回芸備線再構築協議会 (以降順次開催)

(2) 予算（単県）

12,745千円（令和7年度6月補正予算12,588千円を含む）